

なしの生育概況について(生育診断予測第3報)

平成30(2018)年5月8日
経営技術課技術指導班

1 開花状況(生育診断ほ)

豊水では平年より8～9日早く、幸水では平年より10日早い開花時期となった。

幸水

地区	開花始	平年差	開花盛	平年差	開花終	平年差
那須烏山	4月12日	-9	4月15日	-10	4月20日	-8
農試	4月11日	-10	4月14日	-10	4月18日	-10
栃木市	4月6日	-10	4月9日	-10	4月12日	-11

豊水

地区	開花始	平年差	開花盛	平年差	開花終	平年差
那須烏山	4月11日	-7	4月13日	-8	4月18日	-7
農試	4月9日	-8	4月12日	-8	4月18日	-7
栃木市	4月4日	-9	4月7日	-9	4月10日	-10

2 結実状況

園地や品種による差が大きいですが、全体的には以下のとおりとなっている。結実が良くない園地においても、着果数はおおむね確保できると考えられる。

幸水：平年並み。

豊水：平年並み。

あきづき：平年並み。

にっこり：平年並み～やや悪い。

3 病虫害発生状況

黒星病は、平年並みの発生だが、幼果や葉柄等への2次感染が始まっている。

害虫では、アブラムシやアザミウマの発生が早くなっており、ナシヒメシンクイムシは、越冬世代の発生はやや早くなっている。

4 今後の管理ポイント

- (1) 予備摘果では、目標とする着果数を確保する。
着果数を確保できない結果枝では、果実肥大の優れる果そうや肥大状況を考慮し、「1果そう2果」の着果や「果そう葉のない果実」も摘果せず着果数を確保する。その後、着果数や果実肥大状況等を考慮し摘果する。
- (2) 黒星病防除では、計画的な薬剤散布を実施し、芽基部病斑の摘み取りを実施する。
- (3) 過度な除芽や新梢整理(夏季せん定)は、樹勢を低下させるため最小限とする。
- (4) 豊水は5月に高温乾燥に遭遇すると果肉障害が発生しやすいので、この時期に定期的なかん水を実施すると発生低減を図れる。また、例年発生の多い園は、発生を低減させるためにカルシウム剤(葉面散布剤)を満開後14日から2週間間隔で5回以上散布する。